

須坂学園構想基本方針（案）地域説明会

- 1 日時：2025 年 7 月 15 日（火）19～21 時
- 2 対象：第 10 ブロック
- 3 会場：高甫小学校 視聴覚室
- 4 参加者：44 人
- 5 市教育委員会：
勝山教育長、中村教育次長、若林学校教育課長、安川係長、
後藤主任指導主事、北村指導主事

◆参加者 ◇市教委

（１）地域における学校の役割と再編の背景、義務教育学校の設置理由と予算への疑問について

◆参加者 A

- ①地域に小学校があるという重要性について審議会の後、どういう討論されて学園構想がだされたのか教えてほしい。
- ②120 人いる高甫小学校ですが、なぜ変則的な義務教育学校を作るのか。そういうものを作るには莫大な予算がいると思いますが、予算については触れられていないがどうなのか。
- ③審議会の中でコロナの時に、小中学校の分散登校で非常に成果が上がったということがあった。座長もそれを認めていたと思うが、そのことについて全然討論がなされてない。
豊丘小と仁礼小は、少人数だけれども多様な価値観を育てるために工夫している。そういうことが出てこなくて、途中から少人数学級はあまり効果がないということでまとめているが、その点をどう考えるのか。
- ④多様な価値観と切磋琢磨するということが学園構想で、少人数はあんまり効果が上がらないとまとめられている。その考えでいくと、私は下八町と野辺、望岳台は、無理に東中学に行く必要ないと思っている。今の墨坂中学校で十分だと思います。
- ⑤今の小中学校の先生は分刻みで動いている。学習内容が多くてコマ数が増えて、持ち時間は週 18 から 20 時間ぐらい。担任になるともっと多くなる。先生方は忙しくて、休み時間や給食の時間まで使って生活ノートの返事を書いている。そういうことが、小中一貫教育で解消されるのか。もっと学校の先生が忙しくなるのではないか。

◇市教委

- ・地域にある学校の重要性について

○審議会には地区を代表して 4 人の区長にも入っていただき様々な議論をしました。出席した区長からも小学校が地域の中で果たしている役割は大きいので、きちんと考えて欲しいと言われていました。

全国でも子どもの数が減って、学校と統合しなければいけないという地域はあちこちにあります。そういう地域では、学校の代わりに社会教育施設が地域づくりを担っているという事例もある。私

たちもそのような先進的な地域の実例を学びながら、学校がなくなった後の地域づくりを皆さんと一緒に考えていきたい。

- ・分離型の義務教育学校を設置する理由と予算について

○小中学校の学びのあり方を考えた時に、これからは小中一貫教育が有用だと考えています。その中で小中一貫教育に一番取り組みやすいのは義務教育学校です。ただ、規模が大きくなり過ぎると義務教育学校の運営が難しくなってきます。300人ぐらいの規模で義務教育学校が一番、小中一貫教育に取り組みやすい規模だと思っています。信濃小中学校も300人から400人の規模です。第一学園は、義務教育学校として小中一貫教育がやりやすい規模と考えて提案しました。

本当であれば、新しい校舎を作って、一体型の義務教育学校を立ち上げることが望ましいと我々も思っています。ただ、高甫小も仁礼小も全ての学年が1学級しかない。東中学校も1年生と2年生は1学級しかなくて、3年生も2学級しない。今から新しい校舎を構えるとなると、今の東中学校の敷地の中に小学校の校舎、体育館、プール、グラウンド全てを用意するための面積が足りません。そうすると、違う場所に土地を用意しなければならないのでどうしても時間がかかってしまいます。ですので、今ある校舎を使って、分離型の義務教育学校を設置する案を提案させていただきます。

- ・少人数での教育と多様な価値観の育成について

○少人数教育はメリットもあるけれどもデメリットもあるということで、審議会の中で議論になりました。メリットとデメリットを比較した中で、将来的なことを考えれば、やはり一定規模の人数がいた方が子どもたちのためになると結論が出ました。

- ・高甫小学校を第一学園とした理由

○確かに将来的に東中学校、第一学園も少人数になっていきます。ただ、今提案している学園構想は、地域のバランスを考えて、あまり地域が偏らないように、今の4つの中学校を基本として4つの学園を作っていくという案です。その中で、東中学校に近い高甫地区については第一学園ということで提案しています。ではなぜ、高甫地域の全部が第一学園なのかということですが、実は一昨年の地域づくり市民会議の中で、もし高甫小学校を再編する場合は、今の高甫のまとまりは崩さないでほしいというご意見をいただきました。ですので、地域づくり市民会議で出た意見も参考にして、高甫小学校に通っている自治会については、第一学園という案を提案しました。

- ・教員の働き方について

○学校の規模が小さいと1人の先生が多くの校務分掌を担当することになります。ある程度教員の人数がいれば、校務分掌の負担を軽減できるメリットもあります。

(2) 中1ギャップと小中一貫教育の目的、学校行事・教育内容・環境の変化について

◆参加者B

- ・中1ギャップは、中学へ行く、高校へ行く、新しい世界入っていく時には、必要なことではないと思います。
- ・今やっている親善音楽会は、新しい学校では止めてしまうのか。
- ・子どもの数が減ると教員の数も減る。教科担任も減るということですが、そうする東中学校でと墨坂中での行われている教育で同じ教育が受けられるのか心配になります。

- ・豊丘小が常盤中学校に入る理由で、災害の際の経路も考えたということだが、災害は何を想定していますか。
- ・少子化といわれて何十年も経っているが、なぜもっと早くなぜ手をつけてこなかったのか。

◇市教委

- ・中1ギャップについて

○中1ギャップの軽減のために小中学校の連携をもう少しやらなければいけないと考えている。小学校から2つの中学校に行っている学校があり、中学校と連携が取りにくい状況がある。

不登校の生徒が中1になると増える傾向は須坂にある。なぜ増えてしまうのかというと、中学校でその子のこれまでの育ちを把握しきれていなくて、どういうふうにその子に接したらいいのかというところでつまずいて、子どもが学校に来づらくなってしまうことがある。

小中一貫教育を進めることで、中学校の先生が小学校の時から、その子が育ち方を掴みやすくするということが目指しています。

○中1ギャップも必要ではないかという気持ちも分かります。高校に上がるときにもギャップがあり、その先にもギャップがある。しかし義務教育の間は、できるだけギャップをなくしてあげたいと考えています。

- ・親善音楽会について

○小学校6年生と中学校3年生の親善音楽会をどうするかはまだ決めていません。学園構想を進めながら検討していきます。

- ・学校が違って同じ教育が受けられるのかについて

○子どもの数が減ると教員の数も減ります。本来だと中学校の教員では専門の教員が不足することになります。そこで、第一学園は義務教育学校にすることで、1年生から9年生までの学校になりますので、専門の教員を確保しながら、教育の質を下げないということを考えています。

○今後、小中一貫教育のカリキュラムを作り、それを先進的に取り入れた第一学園にしたいと考えています。

- ・豊丘小学校の通学経路の検討について

○豊丘小学校の通学経路の検討では、まずスクールバスを利用した場合の通学時間や距離を検討しました。土砂災害が起きた時に橋を渡らないで済むということも含めて、須坂小学校への統合を考えました。

- ・学校再編の議論の経過について

○実は、今回の学園構想よりもっと前にも、須坂市では学区の再編を検討されましたが、地域の理解が得られずに学区の再編ができませんでした。例えば、村石町は、東中学校の方が近いので、村石町の一部を東中学校へというような案が昔ありました。しかし、同じ町の中で2つ分かれるのは良くないだろうとか。また坂田町は須坂小学校の方がいいのではないかという案もありましたが、昔から小山小学校になっているから、そこは変えなでほしいといったように再編が頓挫した経験があります。そのような経緯もあって、学校再編は先延ばしになってきたと聞いています。

(3) 教育内容と教員の専門性の確保、保護者・地域との連携について

◆参加者 C

- ・子どもを中心に考えた時の適正人数と適正規模で合うように、新しい構想でやっていただくのがいいと思います。地域によって遠距離から通ったりするようになるので、安全性を十分考えていただきたい。
- ・信濃小中学校ができて 1、2 年目に家庭科の授業見させてもさせてもらいました。教科担任の先生が 5-6 年、中学 1、2、3 年と全部受け持っているので、教科担任が子どもの実態を全て分かります。そういった意味では本当に教科の教えやすさは素晴らしいと思いました
- ・人数が減っても多くなっても、文科省の学習指導要領に基づいた力をつけていくのが教員の仕事です。学園構想で、子どもたちのために安全でより良い教育になるようにみんなで知恵を絞りながらうまくいけばいいと考えています。

◆参加者 D

- ・保護者や地域として、小中一貫校になった時の関わり方についてお願いします。
 - ・高甫小は昨年 150 周年を迎えた伝統ある学校で、地域とのつながりが非常に強い学校だと自負しております。ですから、地域の方たちは本当にバックアップしてやっています。ただし、今は墨坂中に行くと薄まってしまう。数の関係で日野地区の生徒数が多いので。それで今度は、仁礼地区と高甫地区で合体して、いいところを繋げてってもらいたい。これまでは小中の PTA で垣根があったが、それを取り払ってもらって。
 - ・長野県自体、学校の先生が不足しています。その中でやはり効率的にうまく学校を運営していくには、地域や PTA の力もないと難しいと思っています。ですから、これをきっかけに保護者や地域との関わりが濃くなるような形で話を進めていただきたい。須坂市 PTA 联合会の方へつないでいただきたい。保護者の役は 1 年で終わりますので、なかなか繋がらないのが現状ですので、毎年繋げてっていただきたいと思います。
 - ・説明会の中で子どもの適正な教育環境、学級数、生徒数、学校運営で絶対必要な先生の数。先生ではなくて地域でバックアップしていく部活動。その辺も地域の方たちに協力を仰ぐという形もアピールしていただきたい。先生たちは非常に忙しい、なり手もない。そんな中でより良い教育環境づくりには地域や保護者の協力が必要ですよという話をに入れていただきたい。
- コロナを機に本当に PTA 行事が減っています。子どもが主役のために、地域や保護者として何できるか、そこもアピールしていただければなと個人的な思いです。

◇市教委

- ・奈良県に視察に行った時に、義務教育学校の中、教室の中にも地域の方がいて、ボランティアをしていました。さらに、放課後に地域の方が学校塾を夕方 4 時から開いて、学習支援をしていました。そのような形で須坂の学校も地域の方に協力をいただければ有難いと考えています。

(4) 第一学園の将来、分離型の学校運営、学園構想の将来の展望について

◆参加者 E

- ・第一学園の分離型の義務教育学校で、高甫校舎の 1 年生から 4 年生と東中校舎の 5 年から 9 年生

は、学校行事は一緒にやっていくということか。

◇市教委

・学校行事の取り組み方は、まだはっきりと決めていません。第一学園はスクールバスを用意しますので、スクールバスを使えば一緒にできる行事があると考えています。

◆参加者 F

・第一学園は何年ぐらい先を見通しての構想か。構想開始から5～6年後には1学級になると予測されているが、2学級を目的とする考え方からすると計画は破綻していないか。

◇市教委

・現在の学校が抱える課題を解消するためまず、5、6年後までに第一学園を開校したいと考えています。開始時は分離型ですが、将来的には子どもの数を把握しながら一体型の学校も検討したいと考えています。

・将来的に1学級になったとしても、義務教育学校にすることで9年間の中で教員を柔軟に配置でき、教育の質は確保したい。現状のままではもっと厳しい状況になるため、まずは第一学園という形で進めたいと考えています。

◆参加者 F

・大きすぎる変化は実現的に難しいから、まずは東地区と高甫地区を義務教育学校でまとめることで効率化が図れると思いますが、もっと踏み込んで、適正規模という観点から行けば、東中学校を残す意味はありますか。ただ、それは今の話、地域のバランスをとるという観点で、残さざるを得ないから第一学園を作ったのかなと感じました。

・今の東中学校には豊丘小学校から通っていて、これを高甫小学校とチェンジしても、東中学校の人数もあまり増えないのでメリットはあまりない。適正規模で言えば、豊丘小学校もそのまま東中学校に行くという考えもあるのではないのでしょうか。

◇市教委

・東中学校を残さずに全部を墨坂中学校にということは、地域的なバランスもあり、今すぐには難しい。現在市内にある4つの中学校を基本として、学校再編することを検討しています。

・豊丘小学校と高甫小学校を変えろという考え方ではなく、豊丘小学校の児童数が今47人と非常に小規模になっているためできるだけ早い対策が必要だということです。豊丘小学校の統合先として須坂小学校を提案したのは教育的なことが一番の理由ですが、通学の安全確保やスクールバスの運行のしやすさ、地理的な近さを含めて検討しました。

◆参加者 F

・スクールバスを前提とするなら距離は重要ではなく、それよりも大きな変化をなくすために、豊丘小学校は東中学校に通うことも選択肢の1つではないのでしょうか。

◇市教委

・審議会の答申では、必ずしも適正規模を得られない場合は適正規模にできる限り近づけるとしています。高甫小学校と仁礼小学校が一緒になっても単級かもしれませんが、今の学校よりは人数が増えることになります。

・豊丘小学校の地域では、学校がなくなる不安や、須坂小学校への統合ではなく豊丘小学校、仁礼小学校、東中学校の一貫校でいいのではないかという意見もお聞きしています。豊丘小学校のことについては、また豊丘の皆さんと話をしながら考えていきたいと考えています。

◆参加者 F

・学園構想は地域と中学校との今までの繋がりに重きを置いていると理解しました。そうであれば、今の中学校はあまりいじらないような形でやっていくのも1つだと思います。

・高甫地区は今までは墨坂中学校に通っている歴史がある。高甫地区は地域に対する愛が強い地域ですので、学校を変えないでやっていくというのも1つの選択肢ではないでしょうか。

・数年後、10年後、どんどん状況が変わって、学園構想もまた変わっていくことになると思います。お金をかけて義務教育学校をやっても、構想を変えなければいけないとなると、そのお金をどぶに捨てることになりますので、そこも踏まえて検討いただきたいと思います。

(5) 学校から：学校の現状、少子化の課題と学園構想への期待について

◆参加者 G

・まず高甫地域の皆様には、小学校の子どもたちの成長、学びに、力強い支援をいただいていることに感謝申し上げます。

・高甫小学校は昔3クラス規模がありましたが、今は全学年1クラスです。

・高甫保育園が小学校のグラウンドの隣にあるので、保育園との交流ができてとても嬉しいです。交流を通して子ども同士、少ない人数の中で繋がりが深まっています。

・少ない人数だと園から小学校まで9年間、ずっと同じ仲間という良さもあります。ただ、例えばちょっとその人間関係でつまずいたときに、そこを切り替える機会が持てない悩みもあります。

・今回の学園構想を考えると、高甫保育園と仁礼保育園の子どもが一緒になることで人間関係が広がるということがあります。

・多くの人と関わりながら、色々な価値観に触れて、子どもたちが成長してほしいと思うところで、人とのつながりが広がることをチャンスとして考えていきたいと思っています。

・義務教育学校は小中学校の9年間で1つの学校になります。その時に、例えば専門性が高くなってくる高学年の教科を、単級の今は担任の先生が全部やっていますが、中学校の専門の先生が教科担任として指導することも可能になると感じています。

・人数が増えることでクラスマッチ、運動会でも活動の幅が広がると思っています。

・縦割りの活動は、今は小学校と中学校でなかなかできない部分もあるので、今後、学年を超えた繋がりを大事にしていければいいなと感じました。

閉会